

愛知県環境影響評価審査会衣浦港3号地廃棄物処分場部会会議録

1 日時

平成19年9月11日(火)

午前9時55分から午前10時45分まで

2 場所

愛知県三の丸庁舎 会議室601

3 議事

- (1) 衣浦港3号地廃棄物最終処分場整備事業に係る環境影響評価準備書について
- (2) その他

4 出席者

(1) 委員

岩田部会長、梅村委員、小池委員、大東委員(以上4名)

(2) 事務局(愛知県)

(環境部)山本技監、田村資源循環推進監

(環境活動推進課)河根課長、藤野主幹、近藤主任主査、平野主査、
松尾主任、関本技師

(大気環境課)内藤主査、那須主任

(水地盤環境課)吉田主任

(自然環境課)磯谷主任

(資源循環推進課)杉本課長補佐、小野主任主査

(3) 事業者

(財団法人愛知臨海環境整備センター)

吉川常務理事、浅野課長、柴田課長、大矢課長補佐、
豊田課長補佐、谷口主査、石原主査

5 傍聴人等

傍聴人5名、報道関係者なし

6 会議内容

(1) 開会

(2) 議事

ア 衣浦港3号地廃棄物最終処分場整備事業に係る環境影響評価準備書について

- ・ 会議録の署名について岩田部会長が、小池委員と大東委員を指名した。
- ・ 事務局より、資料「前回部会(平成19年8月28日)における指摘事項及びその対応」について説明があった。また、前回の部会で委員から指摘のあった「海域の水質調査結果で溶存酸素量が高い理由」について植物プランクトンの光合成によるものと考えられるとの報告があった。

< 質疑応答 >

【小池委員】 溶存酸素量が一番高くなっているのが冬であるので、水温が低いために溶存量が多いということも理由の一つに加えるべきだと思う。プランクトンなら夏のほうが多いはずである。水温が低いと溶存量そのものが増加しており、よくあることであるが、過飽和になっているのではないか。

【事務局】 冬場は水温が低いので溶存酸素が高くなるということもあり、過飽和の傾向もあるが、実際に県が行っている公共用水域のデータを見ると冬場でもクロロフィルaは高くなっているの、その影響があるのではないかと考えている。

【岩田部会長】 前回の指摘事項として、資料に3項目まとめていただいたが、クモ類の調査及び鳥類の食物連鎖図についてご質問をされた委員が本日はご欠席であるので、後ほどきちんと説明をしておいてほしい。

また、近年、様々な動植物について南方系の種が北方へ移動している傾向があると思うが、クモ類についての調査結果では種目が変わっていたということはあったのか。

【事務局】 そういう傾向があるか確認してみる。

【岩田部会長】 潮流楕円について、相関係数が0.83以上であり、概ね信頼できるものであると思うが、夏季において、長軸の向きが実測値と観測値で離れているところが数点見受けられるが、これはどのポイントなのか。

【事務局】 この潮流楕円の比較については三河湾全体で行っており、資料編234ページにあるようにSt.8からSt.13で差が見受けられる。これらの測定点は、準備書本編の552ページの

広域図に示してある。

- 【岩田部会長】 底質についてかなり詳細に調査しているようだが、埋め立てにより流れが変わることによる底質の変化についてどのように考えているのか。
- 【事務局】 底質の予測については、準備書本編 226 ページ表 5-1 のマトリックスにあるように、「浸出液処理水の排出」による「有害物質等」を項目として選定している。その予測結果は、準備書の 656 ページに示されており、名古屋港南 5 区における調査結果を類似事例として引用して影響はないとしている。なお、処分場（埋立地）の存在による底質への影響については小さいということで、方法書の段階から項目選定されていなかった。
- 【大東委員】 処分場ができることによって、元々その場所に存在していたヘドロ状の底質が移動して、別の場所にたまるということはないのか。また、このことについては検討されているのか。
- 【事業者】 潮流については環境影響評価の項目になっていないが、準備書 581 ページに記載したように事業実施区域の南側では流速が低下するものの大きな影響はないと考えている。また、準備書 656 ページにあるように浸出液処理水による影響については、名古屋港南 5 区で埋立前から継続して底質の調査をしているが変化のないことを確認しており、本事業でも底質には影響はないものと考えている。
- 【小池委員】 資料編 170 ページの調査地点 3 の溶存酸素量について、冬に上層より下層ではるかに高くなっているのはなぜか。上層と下層で流れが異なるということはよくあることだが、下層の方が溶存酸素量が高くなっているのはかなり珍しい現象だと思った。特別な地形にでもなっているのか。一度確認をお願いします。
- 【事務局】 ご指摘のとおり、一般的には表層の方が高いと思う。原因について明確に回答できるか分からないが、公共用水域の調査結果等を含め確認してみる。
- 【小池委員】 調査結果をチェックし、数値に間違いがないかの確認をしてもらえればよい。
- 【岩田部会長】 準備書 795 ページに環境監視等について記載されており、きちんと環境監視を実施することだが、陸域と海域、

工事中も含めてどのように考えているのか。

- 【事業 者】 名古屋港南 5 区での環境監視の実績をふまえ、衣浦港 3 号地においても同様の環境監視を行っていきたいと考えている。
- 【岩田 部会長】 施工段階での環境監視と、廃棄物搬入時(供用時)の環境監視は違うものになると思うが、衣浦港独特の計画はあるのか。
- 【事業 者】 具体的な計画、項目については武豊町の意見を聞いて定めることとしている。
- 【小池 委員】 資料編の水質調査結果を見ると、塩素イオン濃度と塩分濃度が比例していないと思えるところもあるが、調査結果を確認しておくことが必要である。
- 【事務 局】 生データを含めて確認する。
- 【大東 委員】 準備書 795 ページの環境監視について、「最終処分場周縁の地下水及び周辺海域の水質」と書かれており、周縁の地下水の監視は陸域で実際に地下水を使っている事業所への影響を確認するためのものであると思うが、帯水層の位置と実際に地下水が使われている事業所の井戸の深さの関連について調べているのか。
- 【事業 者】 40 メートルのオールコアボーリングにより、計画地の地下の地質の状況を把握している。なお、管理施設用地内に地下水の観測井を設けることにしているが、ご意見を踏まえ、位置を決めていきたい。
- 【大東 委員】 海面埋立処分場であり、粘土層の上にある処分場内の水圧を少し下げおくと、内側に水圧がかかるので、仮に粘土層に何かおきても周辺の地下水への汚染はかなり防げると思う。
- 【事業 者】 ご指摘を踏まえ、検討していく。なお、現在埋立を行っている名古屋港南 5 区でも内水の管理水位を定め、降雨による水位上昇及び廃棄物埋立による水位上昇に対しては排水処理施設で処理し、常時、管理水位を維持できるよう運営している。
- 【岩田 部会長】 準備書 665 ページ以降の底生生物の出現状況は、時期によってまた地点によって大きく異なっているが、底生生物の調査結果としては一般的な結果なのか。
- 【事業 者】 底生生物の出現状況は、季節ごとの底質や水質の状況、

富栄養化の程度などによって異なっているのではないかと考えている。

【岩田部会長】 意見も出尽くしたようであるので、事務局は欠席の先生方に本日の議論を説明し、ご意見を伺った上で、今までに出た意見について取りまとめていただきたい。

イ その他

・ 特にない旨、事務局が発言した。

(3) 閉会